

先人たちの受けた恩を受け継ぎ 未来へ向け交流を深める

第25回枕崎市少年の船が5月20日に行われ、小・中学生や一般市民など約240人が参加し、黒島の方々と交流しました。

少年の船は、明治28年に起こった枕崎の海難史上最大の悲劇といわれる「黒島流れ」と、懸命に救出に当たられた黒島住民の温かさを語り継ぐと、昭和56年に始まりました。昨年は悪天候のため中止となり、2年ぶりの開催となりました。

洋上慰霊祭は、海難の犠牲者を慰霊する白衣観音が見守るユキノ瀬沖で行われました。田代志乃さん(桜山中3年)が鎮魂のことは述べ、参加者たちが黒島流れで亡くなられた方々の御霊に献花、一間の黙とうを捧げました。

片泊港に到着すると、多くの黒島の方々が出迎え、子どもたちによるジャンベの演奏で歓迎してくれました。対面式では、子どもたちを代表して、折口恵子さん(立神中2年)が、「これからも黒島の方々とさらに交流を深め、仲良く助け合っていきたいです」とあいさつしました。

片泊ふれあいセンターで行われた交流会では、黒島流れの紙芝居ビデオが放映されました。黒島の住民たちが、流れていた船員たちを懸命に救出したことや、当時「養生米」を炊いてくれた人、養生食したことなど、当時の様子をわかりやすく表現していました。また、黒島の子もたちが枕崎の子もたちにジャンベを指導し、一緒に演奏する一幕もあり、短い時間でしたが、和やかな雰囲気での交流を深めていました。

第25回 枕崎市少年の船

洋上慰霊祭で献花する子どもたち



黒島の子もたちにジャンベを教わる



▲塩屋地区の女生徒たちが『塩屋四ツ竹笠踊り』を披露



▲希望者26名が塩手鼻の慰霊碑に参拝



▲船が見えなくなるまで見送っていただきました

雨にも負けず 子どもたちの 祭り賑やかに

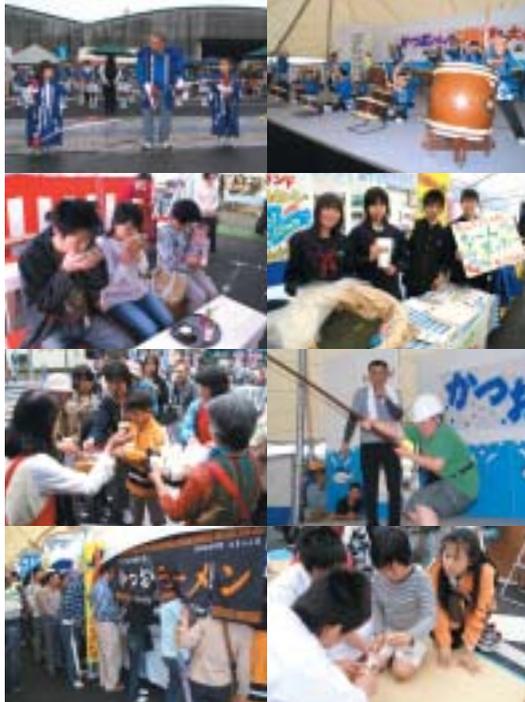
こどもの日かつおまつりが5月4・5日、会場センターを中心にかつお公社、お魚センターで開催され、家族連れなどでにぎわいました。

今年は悪天候に悩まされましたが、たくさんの子もたちが、恒例のかつお一本釣り大会やかつお節削り大会など、用意された様々な催しに参加し、元気に連休のひと時を楽しんでいました。

すっかり祭りの定番となった『かつおラーメン』のコーナーには、長蛇の列ができ、雨で少し冷えた体を、おいしいラーメンで温めています。

このほか、水産高校の生徒たちも、実習船「拓言」体験航海など様々なコーナーで祭りを盛り上げてくれました。

▲かつお一本釣り大会で、中学生女子の記録10分を釣り上げた敷根神菜さん(鹿児島市)



ぼくらが主役！ かつおまつり

まくらぎ朝市10周年

毎月第3日曜日の朝の顔として定着

毎月第3日曜日、枕崎漁港内港で行われている「まくらぎ朝市」が、5月10周年を迎えました。同朝市は、地産産業の活性化などを主な目的として、平成9年5月に枕崎商工会議所が立ち上げました。その後、出店者協議会を組織して出店者自らで運営。野菜や果物、花、惣菜をはじめ、様々なものが販売され、好評を得ています。

近年、絵画展や抽選会、餅つきなども行い、また、年1回、花の苗も無料でプレゼントするなど、より多くの客に楽しんでもらうと、様々な催しを行っています。また、昨年10月からは鮮魚の販売も始め、評判も上々です。

まだ、行ったことのないという方、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲毎回、多くの客で賑わっています。



▲10周年を記念し、カツオジャーも登場。厚石近志協議会長とガッチリ握手。